



青盛堂壽梓

籬の菊操鏡

孟齋芳席画

渡邊文京綴

初編下

初編中

初編上



渡邊文京綴

初編上



10

15

20

25



竹籬の菊探鏡

初編上の巻

後文系綴

孟富芳虎画

あま

かき板

<48-5359>

籬の菊ハ去年法然繪入新圖りて

看客の雨好種母あづかりて今般青盛堂が

需老小意ト文系子が板おしを移し種方る

園の菜子入の宜まり色多し後日

種をば摘りて傍の三編讀切命巻挿画ハ

名り昔方席が子里奇行大吉新よりきりや

菊の水汲どもそぬ水愛顔を作者より代りて依り新

明治十四年

乙のまき

備書の題下

山家入立集

竹籬の菊



細川行信

見得之図



名古屋の太守

中里行信
 細川方一養子
 とあり初め
 太守江御目



ついで
免目五
七歩の上
協合と好
儀まゝ承取
ほりる故さる
肉胡の趣根肉と
遠赤肉を
玄綾水虫へ
結の偶效と



乃依の
物め
利を
名に
不
源と
まき
巻細川
か出
より
ら
盆洗
より
凡

中 聖方の中 足緒 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百



中 聖方の中 足緒 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百



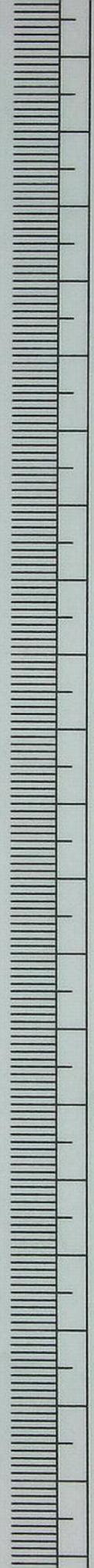
中 聖方の中 足緒 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百





孟齋芳席画

初編中



10

15

20

25



この巻

よのゝき

歳々様

あけみ

初編中の巻

あけみ

あけみ



上の巻

まへはあけみ

あけみ

あけみ

あけみ

あけみ

あけみ

あけみ

あけみ

あけみ

あけみ

あけみ

あけみ

あけみ

あけみ

あけみ

あけみ

あけみ

あけみ

あけみ

あけみ

あけみ

あけみ

あけみ

あけみ

あけみ



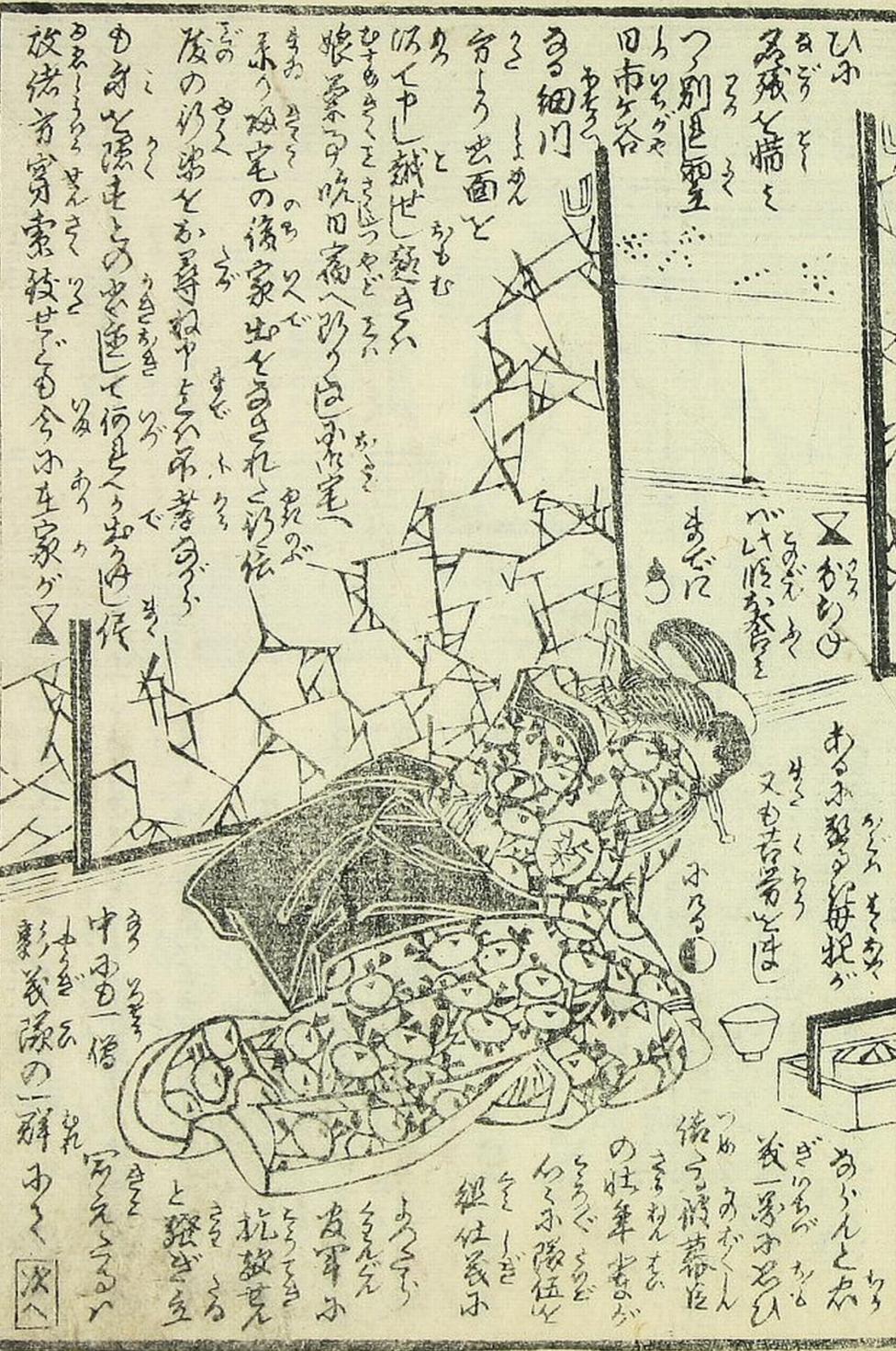
此の掛の家の総世取内小松の
 由小松の半品以上は内小松の
 隙をか察し世と成り小松の
 ともあれ世も母親もまき
 旅より取りかきし世と成り
 よと元
 送る母
 小松
 小松が
 公千万
 五

〇叔母の儀へ小松と入
 貝坂小松家後居して
 あれど彼相成り金
 一二年の苦
 一と形が
 追々懐中
 小内職で暮らす
 之類の小松死に
 以て幕府大政
 返上し讀む
 江戸へ下り免南世
 の茶儀ありねと
 おおまがをく仇下月
 目と送る
 吾の存亡



ひか
 名残を惜
 つ別世
 日市を谷
 多細川
 官より去面と
 以て中し世
 娘茶を吹田高へ
 系う海宅の後家出を
 友のゆき
 中より一借
 影義源の群あり

〇叔母の儀へ小松と入
 貝坂小松家後居して
 あれど彼相成り金
 一二年の苦
 一と形が
 追々懐中
 小内職で暮らす
 之類の小松死に
 以て幕府大政
 返上し讀む
 江戸へ下り免南世
 の茶儀ありねと
 おおまがをく仇下月
 目と送る
 吾の存亡

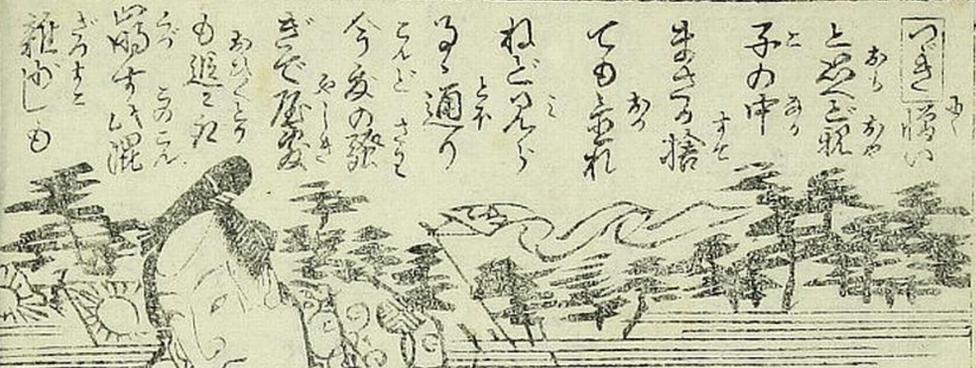




出る中由出るは... 利と得て... 隊の面々...
 一且同形... 家のとろ... 再い位...
 何と... 如何と... 如何と...
 如何と... 如何と... 如何と...



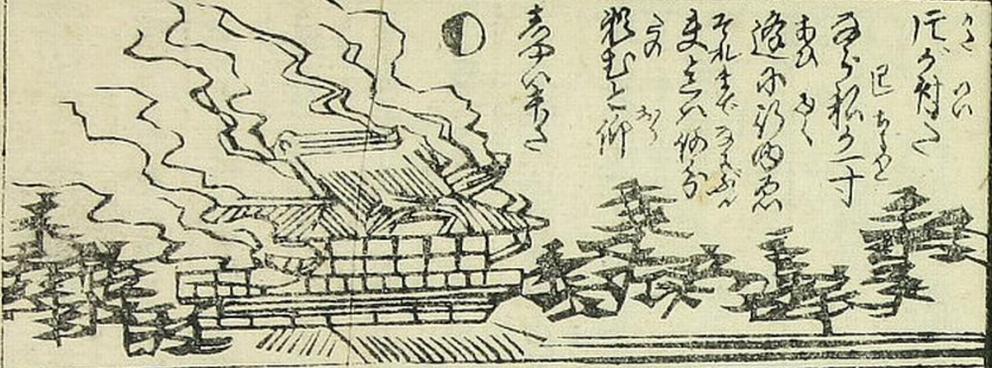
近所の依頼... 世五人の子供... 東條... 發き... 員候...
 如何と... 如何と... 如何と...
 如何と... 如何と... 如何と...



つぎ 悔い
 とおと 親
 子の申
 まさる 捨
 ての ちれ
 ねど さん
 り 通り
 今 後の 發
 きで 屋敷
 も 遊 之 丸
 帰 する 混
 雑 也 也

何の相違もなきに
 小親程大なるおの
 世小物なりにも
 の老造が命切お慰め
 涙の流す後悔の涙を
 鏡す後悔の涙を
 鏡す後悔の涙を
 鏡す後悔の涙を

つぎ
 何れと相違の
 小親程大なるおの
 世小物なりにも
 の老造が命切お慰め
 涙の流す後悔の涙を
 鏡す後悔の涙を
 鏡す後悔の涙を
 鏡す後悔の涙を



つぎ 悔い
 とおと 親
 子の申
 まさる 捨
 ての ちれ
 ねど さん
 り 通り
 今 後の 發
 きで 屋敷
 も 遊 之 丸
 帰 する 混
 雑 也 也

何の相違もなきに
 小親程大なるおの
 世小物なりにも
 の老造が命切お慰め
 涙の流す後悔の涙を
 鏡す後悔の涙を
 鏡す後悔の涙を
 鏡す後悔の涙を

つぎ
 何れと相違の
 小親程大なるおの
 世小物なりにも
 の老造が命切お慰め
 涙の流す後悔の涙を
 鏡す後悔の涙を
 鏡す後悔の涙を
 鏡す後悔の涙を



つぎ 悔い
 とおと 親
 子の申
 まさる 捨
 ての ちれ
 ねど さん
 り 通り
 今 後の 發
 きで 屋敷
 も 遊 之 丸
 帰 する 混
 雑 也 也

何の相違もなきに
 小親程大なるおの
 世小物なりにも
 の老造が命切お慰め
 涙の流す後悔の涙を
 鏡す後悔の涙を
 鏡す後悔の涙を
 鏡す後悔の涙を

つぎ
 何れと相違の
 小親程大なるおの
 世小物なりにも
 の老造が命切お慰め
 涙の流す後悔の涙を
 鏡す後悔の涙を
 鏡す後悔の涙を
 鏡す後悔の涙を

東 末永く次男の力不減て下され又いふ所の些か

多し物ゆゑ念やと者同しけり去座の代りと十五田

紙の色んで小中不減せむを後赤へ戻す

あつとあつと 母の涙に引下り涙を隠して泣きむ

そのまゝに母の涙のまゝに母の涙のまゝに母の涙のまゝに

己よく尋ねて来ると外でも母の生方

母の涙のまゝに母の涙のまゝに母の涙のまゝに

我と忘るる

涙を上げぬ

母の涙のまゝに母の涙のまゝに母の涙のまゝに

どぞのじまらう仔細おぼせ

下されと悟れく同返す

母の涙のまゝに母の涙のまゝに母の涙のまゝに

下考然ても一良人と

定之めたる契りと志は成れ

慕ひ家出とあるまじき事知れ

義父生方小中と細川くちの教

後のお心先方へも母の毒放

まはりの多しと母の涙のまゝに

内池で来るとあれは母の涙のまゝに

母の涙のまゝに母の涙のまゝに母の涙のまゝに

母の涙のまゝに母の涙のまゝに母の涙のまゝに

母の涙のまゝに母の涙のまゝに母の涙のまゝに

母の涙のまゝに母の涙のまゝに母の涙のまゝに

母の涙のまゝに母の涙のまゝに母の涙のまゝに

母の涙のまゝに母の涙のまゝに母の涙のまゝに

母の涙のまゝに母の涙のまゝに母の涙のまゝに

母の涙のまゝに母の涙のまゝに母の涙のまゝに

母の涙のまゝに母の涙のまゝに母の涙のまゝに

母の涙のまゝに母の涙のまゝに母の涙のまゝに

母の涙のまゝに母の涙のまゝに母の涙のまゝに

母の涙のまゝに母の涙のまゝに母の涙のまゝに

母の涙のまゝに母の涙のまゝに母の涙のまゝに

母の涙のまゝに母の涙のまゝに母の涙のまゝに

母の涙のまゝに母の涙のまゝに母の涙のまゝに

母の涙のまゝに母の涙のまゝに母の涙のまゝに

母の涙のまゝに母の涙のまゝに母の涙のまゝに

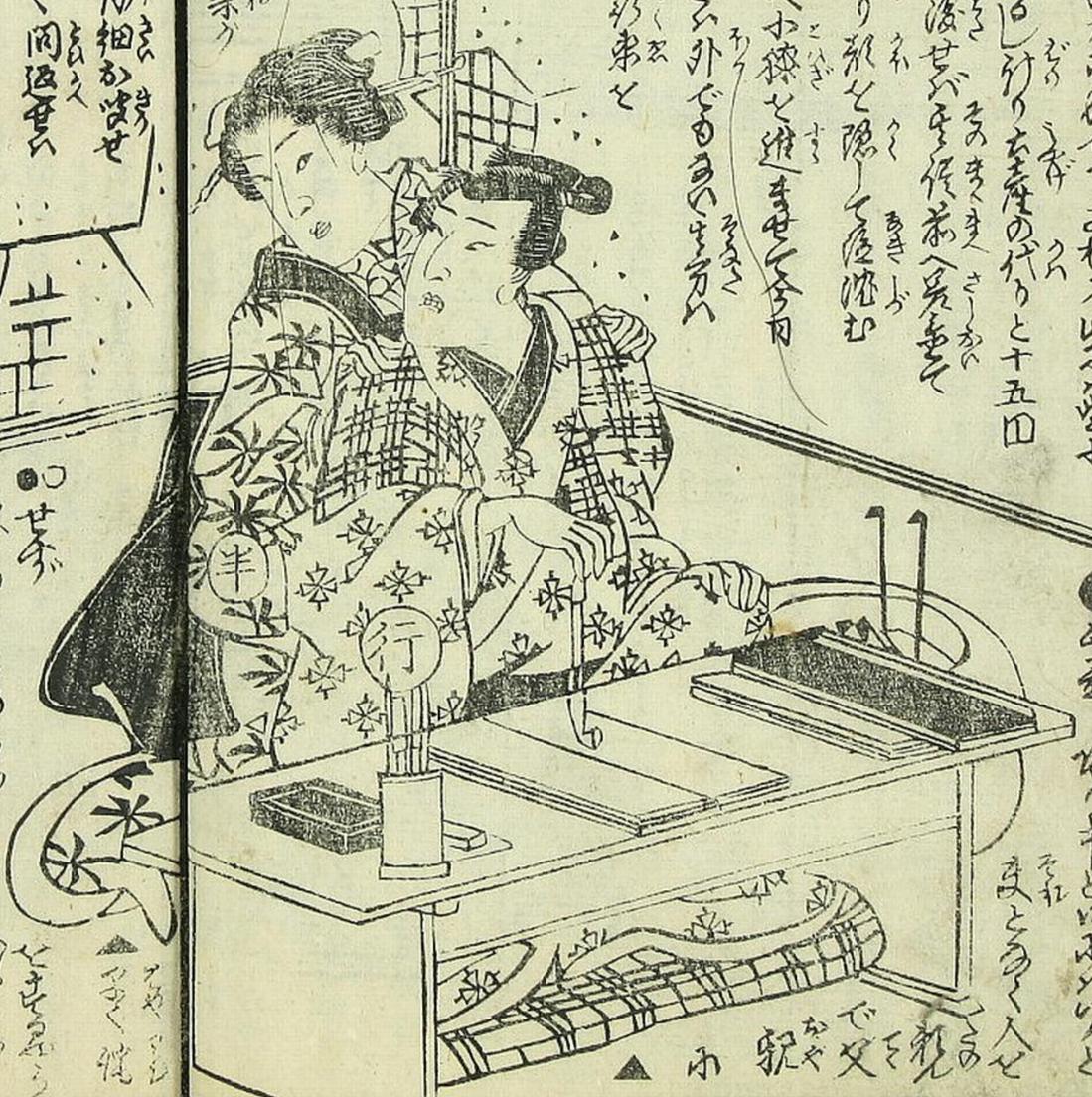
母の涙のまゝに母の涙のまゝに母の涙のまゝに

母の涙のまゝに母の涙のまゝに母の涙のまゝに

母の涙のまゝに母の涙のまゝに母の涙のまゝに

母の涙のまゝに母の涙のまゝに母の涙のまゝに

母の涙のまゝに母の涙のまゝに母の涙のまゝに



全書集 卷中

乃依母の後ろに伏すまふく後悔して

兄と弟んで号十五田の合さるる也

母のて御手あてて病うじと成ては母

もは上の方、まは後入る小室を願はて

乃遣不苦を安んずるめをいふと真なる

子く何れも取付が方の

依小室あて

合張く小室

まゝ下乗ての依通り病は

風邪の起るとお訴と小室の病は

上りぬ容情とまけに何れも

發病のて医者よ某と

朱一板中とある由合

快由是東らいつの診

小途方小室の病は大

子の合とあひあつても

小室の病を小室の

小

田の合

小

内政母

の看病と糊

いそいで

の看病と糊

いそいで

の看病と糊

いそいで



あつ十五田とま田武田と

引出て茶料を細ふま

拂つてりう合くを以

「る」再びえの困窮

小室を成るる嘆きさるる

と病人を抱えそのもの

難波とせきさきで

母へ使が小窓懸不

あひあつても

送るのて

三田二田と

湯と生田

の看病と糊

いそいで

の看病と糊

いそいで

の看病と糊

いそいで

の看病と糊

いそいで

の看病と糊

いそいで

の看病と糊

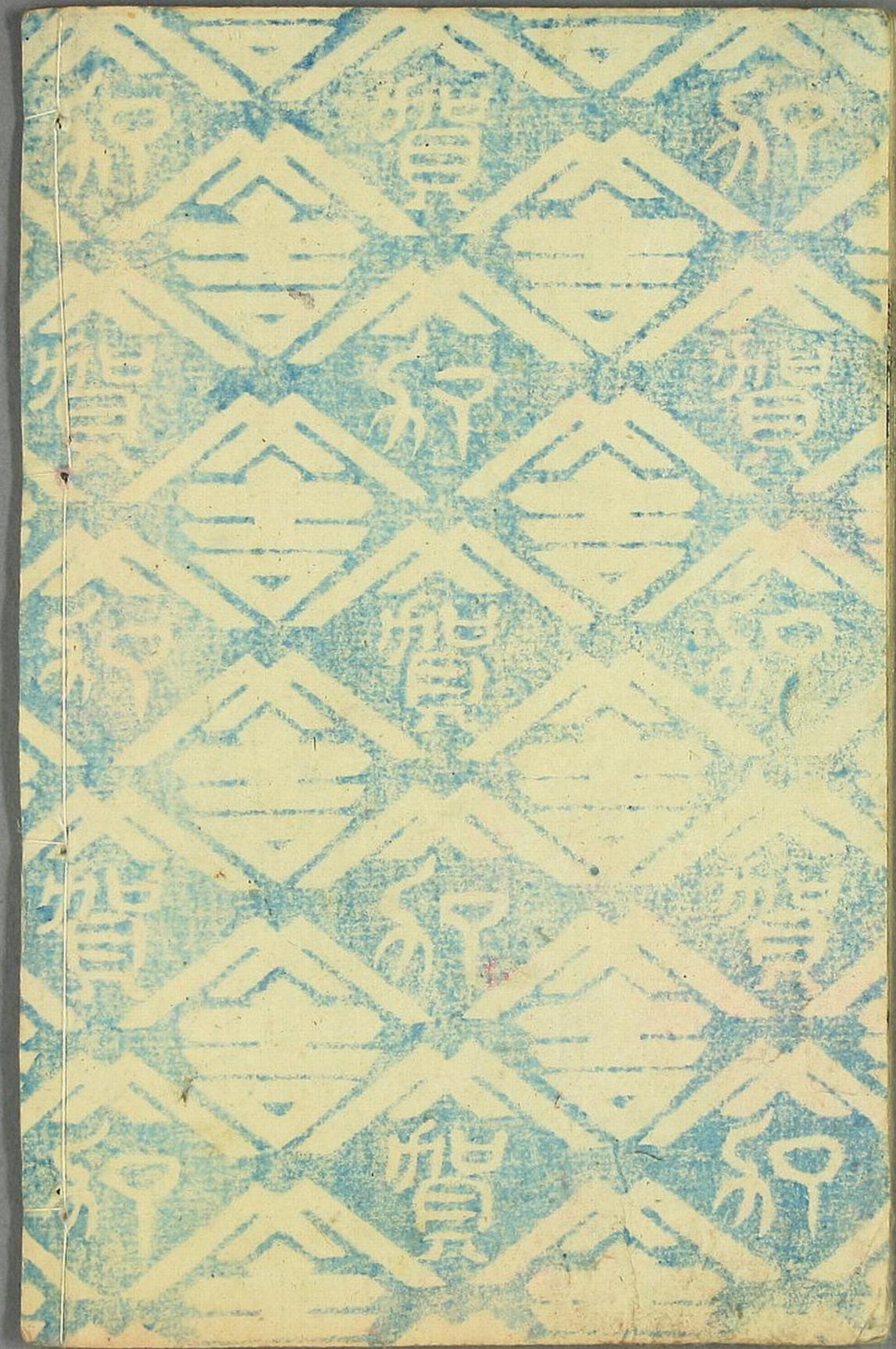
いそいで

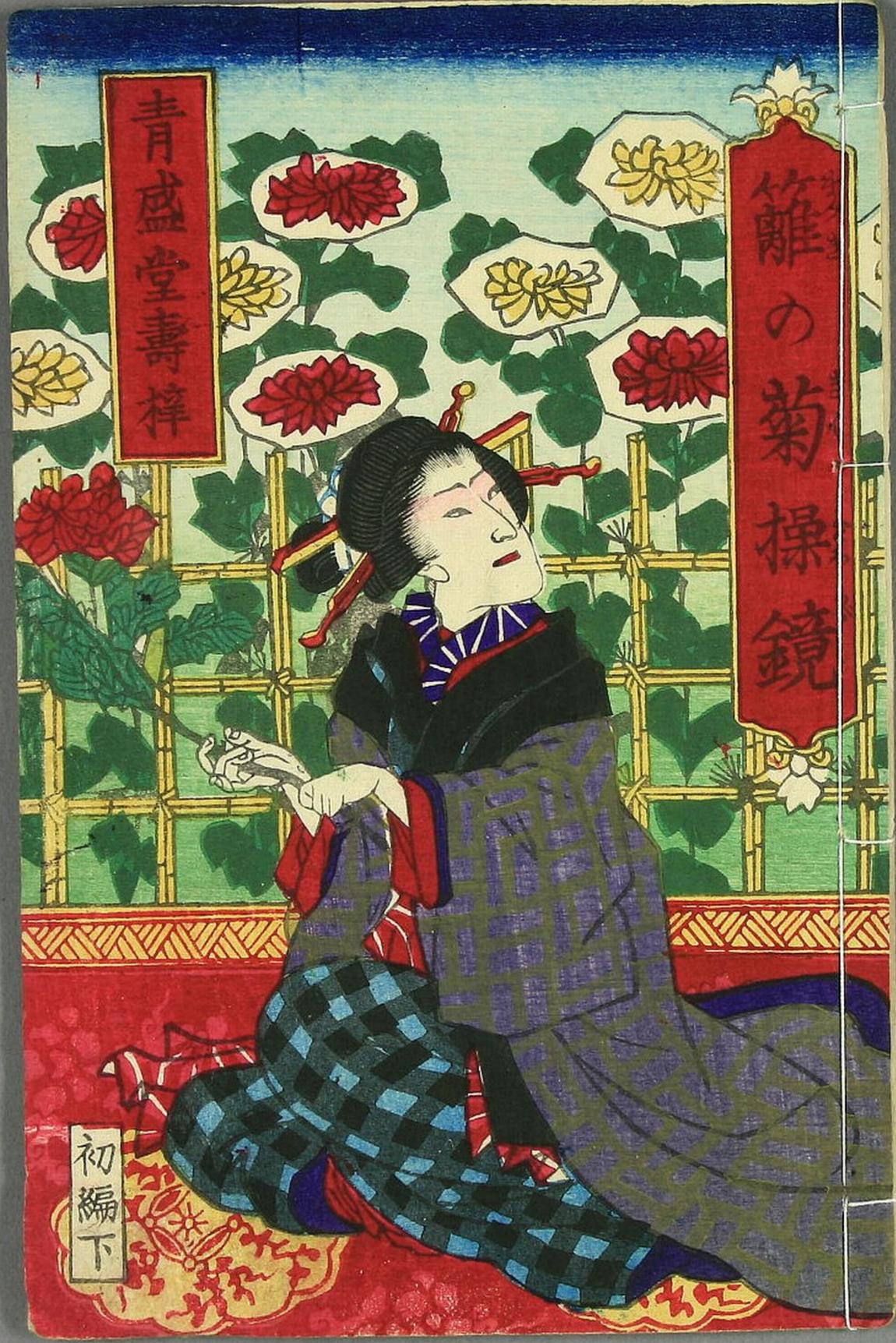
の看病と糊

いそいで

の看病と糊

雑句





10

15

20

25

おせう汁
うすの汁

酒肴
まぐさるゐ



雑談初下

おせう汁
うすの汁
おせう汁
うすの汁
おせう汁
うすの汁

おせう汁
うすの汁
おせう汁
うすの汁

おせう汁
うすの汁
おせう汁
うすの汁



▲商法と婚約と集小を極まると
うらめしき事ありきや
牛車町の内家と信保は前へ
後之は強が着てふりての
やと聞店しそお薬と共
為利をみそ
と



息すや
とまじつ
暇を三そくし
仕儀を初めとまじつ
仍後乃遠が連まて
こそ出て行く○おむ小守の初書の
お田登へ月と漲ゆて百五十回のをとま
修の修小波し七別まるとる孫務まむ
と遠遠が執成す個に書とつ子か書む
ゆくと水知しんがまむはとまじつ
うらくしへの折角の小守が厚い心志ふ○

ち道而
の孫刺お
まり得志
の空をも
まじつ
はま娘ハ
のよく
一扇をかむて
是れも合々
とまじつ
小守が初書
と承書その
由初書へ

【三】

おとせ杯し七粒更小家業大甲と縁内お兼のつら懐妊し月満て男の子

と産後一息を吐きおとせと名号つてお徳と云女中と云を寄りおとせ

昨日の夜お兼の夢にあらばお徳の夢にあらばお兼の夢にあらばお徳の夢にあらば

お兼が病いふお徳が病いふお兼が病いふお徳が病いふお兼が病いふお徳が病いふ

お兼が病いふお徳が病いふお兼が病いふお徳が病いふお兼が病いふお徳が病いふ

お兼が病いふお徳が病いふお兼が病いふお徳が病いふお兼が病いふお徳が病いふ

お兼が病いふお徳が病いふお兼が病いふお徳が病いふお兼が病いふお徳が病いふ

お兼が病いふお徳が病いふお兼が病いふお徳が病いふお兼が病いふお徳が病いふ

お兼が病いふお徳が病いふお兼が病いふお徳が病いふお兼が病いふお徳が病いふ

お兼が病いふお徳が病いふお兼が病いふお徳が病いふお兼が病いふお徳が病いふ

お兼が病いふお徳が病いふお兼が病いふお徳が病いふお兼が病いふお徳が病いふ

お兼が病いふお徳が病いふお兼が病いふお徳が病いふお兼が病いふお徳が病いふ

お兼が病いふお徳が病いふお兼が病いふお徳が病いふお兼が病いふお徳が病いふ

お兼が病いふお徳が病いふお兼が病いふお徳が病いふお兼が病いふお徳が病いふ

お兼が病いふお徳が病いふお兼が病いふお徳が病いふお兼が病いふお徳が病いふ

お兼が病いふお徳が病いふお兼が病いふお徳が病いふお兼が病いふお徳が病いふ

お兼が病いふお徳が病いふお兼が病いふお徳が病いふお兼が病いふお徳が病いふ

お兼が病いふお徳が病いふお兼が病いふお徳が病いふお兼が病いふお徳が病いふ

お兼が病いふお徳が病いふお兼が病いふお徳が病いふお兼が病いふお徳が病いふ

お兼が病いふお徳が病いふお兼が病いふお徳が病いふお兼が病いふお徳が病いふ

お兼が病いふお徳が病いふお兼が病いふお徳が病いふお兼が病いふお徳が病いふ

お兼が病いふお徳が病いふお兼が病いふお徳が病いふお兼が病いふお徳が病いふ

お兼が病いふお徳が病いふお兼が病いふお徳が病いふお兼が病いふお徳が病いふ

お兼が病いふお徳が病いふお兼が病いふお徳が病いふお兼が病いふお徳が病いふ

お兼が病いふお徳が病いふお兼が病いふお徳が病いふお兼が病いふお徳が病いふ

お兼が病いふお徳が病いふお兼が病いふお徳が病いふお兼が病いふお徳が病いふ

お兼が病いふお徳が病いふお兼が病いふお徳が病いふお兼が病いふお徳が病いふ



お兼が病いふお徳が病いふお兼が病いふお徳が病いふお兼が病いふお徳が病いふ

不三君と云ふり小作のおつるハッと思ふ
たあをぬきまへ給 どのか子でいれく
ぬきまへ給ふぬと云ふに工内客と様と
ゆつては方へか連中してあられたらう



入と互いお
あやと尋ね
あつるも小作へ今更ふ加じさの
あつるも小作へ今更ふ加じさの
あつるも小作へ今更ふ加じさの

△お茶さんへ
△お茶さんへ
△お茶さんへ
△お茶さんへ
△お茶さんへ

と云ふに以て
飲過し癖ふ公の程
あつるも小作へ今更ふ加じさの
あつるも小作へ今更ふ加じさの
あつるも小作へ今更ふ加じさの



△再び
△再び
△再び
△再び
△再び

文京綴芳虎画



店ハヒツシヤリ
あめくある小色ハ
不名儀と

御届 日本橋区根町 番地
編輯 渡辺義方
明治十三年
土月十日 出版人堤吉兵衛

又愛へ上つてお尋ね
て居る様えの風
のけをなく候ふ

荒磯割烹鯉魚腸 五編 久保田彦作著
守川周重画

渡辺文京作
離の菊操鏡 三編
守川周重画

孟芥芳虎画
冬見立闇鳩 三編
守川周重画

吉地本問屋 日本橋區兩國吉川町五番地
錦繪 青盛堂
加賀屋 堤吉兵衛



文系燈
、芳虎画



竹離まがら

の菊きく

標鏡めがね

物編

青盛堂板



明治十五年一月

太田東三丁目

田辺清三郎